令和３年度　第２回京田辺市健康づくり推進協議会【要点録】

日時：令和３年10月７日（木）午後２時～３時

場所：京田辺市保健センター　第１保健指導室

１．開会挨拶

２．報告・協議事項

　〇第２期京田辺市健康増進計画・食育推進計画策定について

　　・素案協議

３．その他

---------------------------------------------------------------------------------------------------

１．開会挨拶

２．報告・協議事項

〇第２期京田辺市健康増進計画・食育推進計画策定について

*【事務局】　第１章（計画の策定にあたって）、第２章（京田辺市の健康づくりと食育を取り巻く現状）、第３章（計画の基本的な考え方）の説明*

【会長】

今回の計画では分野をまず先に立てて、その分野ごとにライフステージでという構成に変えた。

第２章の「５．今後の健康づくり・食育の推進のポイント」について、なぜ、このポイントが出てきたのかという位置づけを書くことで、もっと分かりやすくなる。

*【事務局】　第４章（京田辺市における健康づくりと食育の推進）、１）～６）の説明*

【委員】

「休養・こころの健康」では、文化活動や生きがいづくりがかなり大きなウエイトを占めると考えるが、その点の記述は必要ないのか。

【事務局】

該当部分の指標には「１年間で地域活動に参加した人の割合」を目標に挙げ、市民の行動も設定しているが、行政、地域、団体の取り組みについては少し表現の工夫をしてみたい。

【会長】

こころの健康については多種多様であり、どこまで具体的に計画に入れるかというのは難しいところだが、重要な意見だと思う。何かキーワード的なものを追加できるのであれば、検討頂きたい。

【委員】

「めざす姿」について、なぜ、この姿をめざすのかというところがあれば、市民にも分かりやすいのではないか。

【委員】

「めざす姿」の下に「本市の現状と課題」というがあり、順番を逆にしたら、委員のおっしゃったような流れになっていくのではないか。

【会長】

「めざす姿」を先に出す構成は、前と一緒なので、第１期計画を踏襲しているということ。

「めざす姿」という表現だと、一人ひとりのことだと思われるが、今回の「日常生活で積極的に身体を動かしている人が増えている」という内容であれば、市民全体的、将来像みたいな感じになるのかなと思うので、表現をちょっと工夫していただければ。

【委員】

めざす姿は行政がめざす姿であって、個人の目標達成をサポートする立場の行政の目標ではないか。

この計画の中には、個人が心掛けなければならない個人の問題と、行政が取り組むべき、あるいは目標とすべきものとが混在しているような気がする。計画内容については、行政の目標、行政の取り組みだと割り切って考えるのはだめなのか。

【会長】

計画についてはおっしゃる通り行政の取り組みになるが、結局、市民一人ひとりの人が、例えば、運動に取り組む頻度がどれだけ上がったかというところで、行政の取り組みを評価することになる。

指標については、第１期計画よりハードルが下がったように感じる。全体を通して、10年後の目標値については、どのようなロジックの下で設定したのか。

【事務局】

第１期計画の10年間における目標の達成度を加味して、今回は目標を掲げた。また、国や府と同レベルの目標を掲げるという整理の仕方もした。

【会長】

現実的なところで到達できる最高値のような感じ。

*【事務局】　第４章（京田辺市における健康づくりと食育の推進）、７）～10）の説明*

【委員】

調査結果で１日に１食しか食べていない子どもがおり、その対応をどうするか。めざす姿で「食事を取れない子どもをゼロにする」を設定してもよいのではないか。

【会長】

関連する取り組みは「子どもの成長に応じた正しい食生活の促進」だが、計画の中で、個々に対する具体的な表現をどこまでできるか。

【事務局】

地域では子ども食堂などの取り組みもはじまっており、食生活改善推進員により子どもが自分で食事をつくることができるようになるための調理実習などもある。また、虐待を受けている子どもへの支援もあるが、計画において個々の詳細な施策を掲載するのは難しい部分がある。

ご意見をいただいた子どもの虐待につながるようなところは、食育とは視点の違うところになり、子育ての計画などの他の福祉的な計画で補完をしていくということになる。

【委員】

食生活改善推進委員として、協力させていただけるところはさせていただきたい。授業を通じて、ほとんどの小学生も地産地消については知っており感激した。

【委員】

ライフステージの「高齢期」が65歳以上というのは何で決まっているのか。平均寿命が延びて、100歳以上の人が増えている時代に、「高齢期」「65歳以上」の取り組みがどうなのか。

【事務局】

65歳以上が高齢期というのは、国の基準で設定されている。

【委員】

70歳以上でもいいのではと思う。

【会長】

一理あるが、国としては、どこかで高齢者と線引きをしないといけないので65歳以上と決めているのではないか。

では、素案については、改めて見ていただき、もし、気づいたことがあれば、10月いっぱいくらいに、事務局にご連絡いただければ。

３．その他

*【事務局】今後のスケジュールについて説明*